



基調講演に続きコーディネーターを務めた藤井さん

### 第2部 パネルディスカッション 「高速道路を活用したまちづくり」

基調講演に続いて行われたパネルディスカッションでは、藤井聡氏をコーディネーターに迎え、5人のパネリストが「高速道路を活用したまちづくり」をテーマに意見交換しました。

#### より広域への発信が可能に



京都府副知事 城福健陽さん  
近畿圏だけでなく、中京圏、北陸圏、山陰地方圏も含む広域的ビジョンを持ち、日本海国土軸の必要性、将来のまちづくりの展望を示していきたい。

#### 地元から機運を高めることが重要



国土交通省 近畿地方整備局道路部長 橋本雅道さん  
住民一人ひとりが公共事業について考え、その必要性を認識した上で、熱意を持って地元から声を上げることがとても重要です。

#### ビジョンを持ってまちづくりに臨む



丹後・地域高規格道路推進協議会会長 三崎政直  
速達性だけでなく観光資源へのアクセスを視野に入れたルート検討を進める。地域の皆さんと一緒に高速道路を活用したまちづくりに取り組みたい。



5人のパネリストが語る高速道路延伸と地域活性化

#### 観光入込客増加の起爆剤に

海の京都 DMO 取締役社長 大同一生さん  
観光面でも高速道路の開通は大きなインパクトがある。周遊性の向上で新たな需要を創出していきたい。



#### 交流人口・移住者増加に期待

京丹後市移住支援員 小林朝子さん  
高速道路の整備で地域外との交流はもちろん、地域内の交流も活発化した。ライフスタイルが多様化し、移住者の選択肢が増えたと感じています。



## 高速道路延伸による地域活性化シンポジウム



第1部 基調講演  
「高速道路が『地域』を救う」  
講師：京都大学大学院教授 内閣官房参与 藤井聡 氏

### 高速道路は「現代版 “どこでもドア”」

高速道路の整備は、周辺地域での企業立地や人口増加などに大きな効果が期待でき、それが地域経済の成長率を大きく向上させ、地域が活性化する。「地方にこそ高速道路が必要である」と力説。  
例えば、素晴らしい資源があるのに誰も訪れることができない絶海の孤島も、どこでもドアで行き来できるようになれば多くの人が訪れ、島が生まれ変わる。まさに高速道路は「現代版どこでもドア」であると、高速道路が土地の「意味」を一変させる力を持っていることをユーモアを交えて解説されました。

10月28日、アグリセンター大宮で、「高速道路延伸による地域活性化シンポジウム」が開催されました。第1部では、京都大学大学院教授で内閣官房参与の藤井聡氏が「高速道路が地域を救う」と題し基調講演し、第2部のパネルディスカッションでは三崎市長をはじめ5人のパネリストが高速道路を活用したまちづくりについて意見を交わしました。シンポジウムは、京丹後市のほか北丹後2市2町でつくる「丹後・地域高規格道路推進協議会（会長：三崎政直市長）」が主催。会場に詰めかけた約300人の参加者は、山陰近畿自動車道の早期完成に向けた機運の高まりを共有していました。

高速道路  
山陰近畿自動車道早期完成促進大会  
シンポジウム開催で機運高まる

#### 山陰近畿自動車道トピックス②

#### 「大宮峰山道路」でボーリング（掘削）調査が始まる



10月から大宮町森本地内などで、延伸工事に向けたボーリング（掘削）調査が始まりました。「大宮峰山道路」の早期開通に向けて着々と事業が進められています。

#### 山陰近畿自動車道トピックス①

#### 「大宮峰山道路」は現在、国により事業中です

山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）は、鳥取市から豊岡市を経て宮津市に至る延長約120kmの地域高規格道路で、京都縦貫自動車道、北近畿豊岡自動車道、鳥取自動車道、山陰自動車道と連結し、北近畿の広域的なネットワークを形成する重要な路線です。  
京都府内では、昨年10月に開通した「野田川大宮道路」に続き、京丹後大宮ICから（仮）大宮峰山ICまでを結ぶ延長5kmの「大宮峰山道路」が国による直轄権限代行で事業中です。

